

検定試験の第三者評価 【簡易版】 総括評価 評価結果

1. 対象検定試験 世界遺産検定
2. 実施運営団体 特定非営利活動法人 世界遺産アカデミー
3. 受審有効期間 2029年3月まで有効とする
4. 評価講評

●大項目Ⅰ 検定試験の実施主体に関する事項

検定試験の目的は明確に示され、組織体制・危機管理・内部チェック体制が整備されている。財務経理情報は適切に備え置かれ、他事業との区分も適切である。検定試験の実施主体に関する事項、検定試験に関する情報及び個人情報保護方針がウェブサイトで開催されており、運営の委託先も含め管理体制を整備している。また、自己評価の実施と第三者評価の継続的な受審により、PDCA サイクルに基づく改善がなされている。社会環境の変化を踏まえた内容・手続きの見直しを行っている。

●大項目Ⅱ 検定試験の実施に関する事項

検定試験の概要、階級別の水準や試験範囲は明確に示され、受検手続・受検料・問い合わせ体制も適切に整備されている。障害者配慮や CBT 導入等により利便性・公平性を確保している。作問・審査体制は適切に構成され、検定試験に関する情報へはアクセス制限を設けている。検定試験実施マニュアルに基づき、受検者の本人確認、不正防止対策、災害対応がなされ、学校等で実施される試験についても公開会場での検定試験と同等の公平さが確保されている。また、学校等で活用される検定試験として、実施時期や学習指導要領との整合、結果の安定性確保に向けた検証が行われている。

●大項目Ⅲ 検定試験の試験問題に関する事項

検定試験の目的に沿って、各級の出題分野や具体的知識が明確にされ、作問委員会による問題作成と継続的な見直しが行われている。審査・採点基準は明確に定められており、論述試験では複数採点等により公平性が確保されているほか、認定率の分析等を通じた改善も行われている。さらに、CBT と PBT においても同一基準で問題が作成されるなど、測定の妥当性・公平性および継続的改善の仕組みが適切に確保されている。

●大項目Ⅳ 継続的な学習支援・検定試験の活用促進

理解度や習熟度を把握できるものとして、受検者には分野別の得点が記載された結果通知が発行され、合格者には「認定カード」も発行されている。ウェブサイトには各級において受検者が獲得できる知識・技能の内容が明示され、また、社会における諸活動との関係性や大学等での活用事例が公開されている。上位級取得者対象の受検制度や過去問題の公開等を通じて継続的な学習を支援する体制が整えられている。

5. 評価達成率

大項目	該当項目数	達成項目数	達成率
I. 検定試験の実施主体に関する事項	9	9	100%
II. 検定試験の実施に関する事項	21	21	100%
III. 検定試験の試験問題に関する事項	6	6	100%
IV. 継続的な学習支援・検定試験の活用促進	6	6	100%
合計	42	42	100%